海の見える学校

令和６年２月１４日／発行者：松本　直道（長崎市立畝刈小学校校長）

ＡＺ教育　～一人一人の子供を大切にする学校～

あぜトーーークの様子

学校評価より

１１月に行った学校評価ですが、２月８日の学校評価委員会で結果について話合いを行いました。保護者の皆様には大変遅くなりましたが概要をご報告いたします。

「学校の教育目標達成」については、保護者・教職員・児童ともに９割を超えた達成率でした。また「学校は明るく楽しい雰囲気である」に関してもすべて９割を超えています。「ルールやマナーを守る」に関しては、昨年度は教職員の評価が大変低かったのですが今年度はかなり向上しています。昨年度は「教育環境整備」「情報発信」についても、やや課題がありましたが、今年度は保護者・教職員は９割を超え、昨年度よりかなり向上しました。

今年度の課題としては、保護者からは「家庭学習の習慣化」「基本的生活習慣」が、やや低い評価となっており、教職員は「挨拶の習慣化」が昨年度より低くなりました。児童は「学校・学級の通信を家族でよく見ているか」がやや低いです。

学校評議員と育友会会長による学校評価委員会では、全体的に9割近い高評価で、学校の教育活動が充実し、子供や保護者の満足度が高いことがうかがえるとの意見をいただきました。

評価委員からは「学校におけるいじめの状況」「保護者・地域・学校の連携」「校務の縮減・効率化」「家庭学習の習慣化」などについて質問や意見がありました。

いじめの状況については、今年度も数件確認されており、早期発見、早期解決を心がけてきたこと、担任だけでなくチームでの対応を心がけていることを話しました。３者連携については、学級懇談会の参加率が低いことが一つの課題であり、改善を目指していくこと、「校務縮減」や「家庭学習」については具体的な取組状況を説明しました。

次年度の教育課程編成の参考にしていきます。

世界に目を向けよう～アメリカンスクールとの国際交流～

１月３１日（水）3年生の子供たちが楽しみにしていた佐世保市にある「ダービー校」というアメリカンスクールとの国際交流がありました。

ダービー校とは私が佐世保市立江上小学校に勤務していた頃に定期的な交流があり、長崎市の小学校でもぜひやってみたいと思っていたので、私自身とても楽しみにしていました。3年生児童はこの日のために、どのような交流をするか、言葉が通じない中で、どうやって一緒にすることを伝えるかなどよく考えていました。

体育館での出会いの会では、リコーダーの演奏を聞いてもらったり、英語や日本語でお互いに簡単なスピーチをしたりしていました。スライドを使ってお互いの学校について紹介しあい、理解を深めました。英語と日本語が入り混じる中で、少しでも理解しようと一生懸命な姿がありました。

交流の時間では、3年生の１組から４組まで、クラス毎に自分たちで考えた様々なゲームやアクティビティを行いました。福笑い、学校探検、体操や体を使ったゲーム、折り紙、昔遊び（けん玉・達磨落とし・コマ等）･･･日本風の遊びでダービー校の子供たちを楽しませていました。

言葉はほとんどお互い通じないのですが、例えば、学校探検では教室などの英語の説明の言い方を調べて、カタカナでカードに書き込んだ内容を伝えていました。体を使う遊びや活動には言葉はいりません。ルールを英語で通訳（ダービー校の先生やボランティア）の方に説明してもらったら、ジェスチャーでちゃんと通じあえます。

交流活動が終わったら、給食の時間です。しかし、その日はなんと「納豆料理」さすがにアメリカの子にはハードルが高いようでした。日本の子供たちは、アメリカの子供たちが持ってきた弁当に興味深々でした。アメリカの子供たちは、日本の子供が給食の注ぎ分けを自分たちですることに大変驚いていました。

た。アメリカの小学校の昼食は社員食堂のように大人の人から注ぎ分けてもらうのが普通です。

お別れの会では、抱き合ったり涙ぐんだりする子もいました。言葉を超えたすばらしい交流ができました。

3年生の子供たちは、今回の交流を通して、「異文化を知る」「外国語を学ぶ意義や必要性」「日本文化のよさの再認識」などを体験的に学んだと思います。外国語の時間は中学年では週１時間、高学年でも週２時間しかありませんが、こうした国際交流も計画することで、外国語を学び、世界に目を向け、世界に羽ばたいていく子供を少しでも増やしていきたいと考えています。

【　あぜトーーーク　】

～地域コミュニティ協議会ワークショップ～

１月２７日（土）三重地区市民センターにおきまして、２回目となる「あぜトーク」が行われました。畝刈小学校校区に住む住民なら誰でも参加でき、地域をよくしていくためにはどうすればよいかについて話し合うこの協議会に、６年生の有志１８名が参加しました。

今回は「地域のつながり・地域活性」「伝統・文化」「子ども」「自然・生活環境」「安心・安全」という５つのテーマにしぼり、１０人くらいの小グループ（地域住民・小中学生など）毎に、テーマについて意見を出し合います。

６年生は事前にテーマについて調べ、意見をしっかりとまとめており、堂々とした態度で自分の意見を言ったり、地域住民の他の方の意見を聞いたりしていました。

令和６年度から立ち上がる予定の「地域コミュニティ協議会」の準備委員会に、畝刈の将来を担う畝刈小学校児童や三重中学校生徒が参加できることは、とても有意義なことと思います。

グループの報告でも率先して発表する子供たちの姿をとても誇らしく感じました。